

2022年6月13日

報道関係 各位

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

コカ・コーラ ボトラーズジャパン、三菱地所と協業し、 オフィスビルでの「ボトル to ボトル」を開始

テナント就業者への分別回収の啓発により PET ボトルの水平リサイクルを推進

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長 最高経営責任者:カリン・ドラゴン、以下 当社)は、三菱地所株式会社(以下、三菱地所)と協業し、丸の内エリア(大手町・丸の内・有楽町)のオフィスビルで回収した使用済み PET ボトルを新たな PET ボトル製品に再生する「Bottle to Bottle(B to B)リサイクルサーキュレーション」(※)を構築しました。

(※) Bottle to Bottle (ボトル to ボトル) : 使用済み PET ボトルを回収・リサイクル処理したうえで PET ボトルとして再生し、飲料の容器として用いる、水平リサイクル。

当社と三菱地所は、「Bottle to Bottle(B to B)リサイクルサーキュレーション」において、丸の内エリアの三菱地所所有・管理ビル(9棟)で回収される使用済み PET ボトルの「ボトル to ボトル」に取り組み、また、コカ・コーラ社自動販売機を活用し、テナント就業者に対して、使用済み PET ボトルの適切な分別回収の啓発に取り組みます。

[ボトル to ボトル]

対象ビル執務内に設置した回収ボックスで集められた使用済み PET ボトルは、粉碎・洗浄などの中間処理を経て、再原料化されます。再生された PET 原料は、当社各工場にてコカ・コーラ社製品の容器に使われます。



[使用済み PET ボトルの適切な分別回収の啓発]

回収対象ビル内共有部に設置した当社管理自動販売機に、コカ・コーラシステムがプラスチック循環型社会の実現に向けた啓発活動の一環として製品などに導入している「リサイクルしてね」ロゴを、POPとアップサインにて掲示、自動販売機横には、PET ボトルをボトル本体、キャップ、ラベルに3分別するリサイクルボックスを導入します。3分別対応リサイクルボックスには、自発的な行動変容を促す「ナッジ理論」を活用したメッセージを掲出することで、分別を促進します。なお、リサイクルボックスの回収袋には、使用済み PET ボトルのキャップを一部原料としたポリ袋を使用します。



常盤橋タワー内に設置されたコカ・コーラ社自動販売機
とリサイクルボックス



「ナッジ理論」を活用したメッセージを掲出

三菱地所は、資源循環に着目した廃棄物再利用率 100%に向けた取り組み「サーキュラーシティ丸の内」により、テナント就業者とともにサステナブルな社会の実現に向けた取り組みを推進しています。これまで、同社所有・管理ビルで回収された PET ボトルは、プラスチックのシートや、繊維または PET ボトルなどにリサイクルされていましたが、当社との連携によって確実に PET ボトルに戻る仕組みを構築します。水平リサイクルする仕組みの構築とテナント就業者への適切な分別回収の訴求により、両者で更なる資源循環を目指します。

当社はコカ・コーラシステムが目指す「容器の 2030 年ビジョン」（注 1）において、パートナーとの協働による着実な容器回収・リサイクルスキームの構築などに取り組んでおり、このたび、日本のビジネスの中心地である丸の内エリアに多くのオフィスビルを所有・管理する三菱地所と協業することで、日本国内における PET ボトルの循環利用への更なる貢献を目指してまいります。

【使用済み PET ボトル回収対象ビル】

1. 大手町タワー
2. 新丸の内ビル
3. 丸の内永楽ビル
4. 常盤橋タワー
5. 三菱ビル
6. 大手町フィナンシャルシティサウスタワー
7. 北口ビル
8. オアゾ
9. 新大手町ビル

（注 1） 「容器の 2030 年ビジョン」とは（<https://www.ccbji.co.jp/csv/environment/?id=tab3>）
2025 年までにすべての PET ボトル製品へのリサイクル PET 樹脂などのサステナブル素材の使用、2030 年までに販売した自社製品と同等量の PET ボトルの回収、パートナーとの協働による着実な容器回収・リサイクルスキームの構築などに取り組んでいます。

※ニュースリリースに記載された情報は、発表日現在のものです。最新の情報と異なる場合がございますので、あらかじめご了承ください。